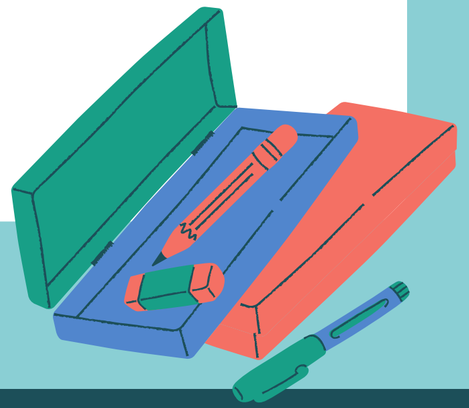
【お品書き】

1.ポイント紹介
2.要約と流れ
3.前置詞のイメージ化
4.本文解説







【ポイント紹介】

Hoshino Michio (1952-1996) is a well-known nature photographer. He produced a great number of wonderful photos of wildlife in Alaska. Here, he talks about Alaska, its people, and “distant nature.”

When I was a freshman in college, I came across a photo that changed my life.【★1】 It was a beautiful photo of a small village called Shishmaref on a small island in Alaska. At first, I couldn’t believe that people could live in such a remote place. However, when I found the village on the map, I got interested and had an urge to go and visit this tiny village.

I decided to write a letter, but I didn't know anyone in the village. So I wrote "Dear Mayor of Shishmaref," asking him to introduce me to some family who might let me stay. Half a year later, I received a reply inviting me to visit.

In 1973, I went to Shishmaref and spent the summer **with** an Eskimo family. I ate the same food **as** they did, and even went caribou hunting **with** them. The local people often called me "Eskimo boy"! It seemed that every day brought me new experiences.

【★2】**Living in Alaska, I discovered that people lead their everyday lives even in such an out-of-the- way place, just as we do back in Japan.**

要約

<星野道夫さんと写真の出会い>

大学一年生の時シシュマレフ村の美し景色を見た道夫はズキーンと心にきてドカーンと行きたい衝動に駆られたんですね。そのままの勢いでシシュマレフ村の村長に家族の紹介の依頼の手紙を送ると、半年後にオッケーがもらえたっちゅーわけです。

1973年の夏、シシュマレフ村に行ってエスキモー(今のイヌイット的な、肉や魚が食事の9割を占める偏食な民族)と同じように生活を送っていました。そんなこんなでつけられたあだ名は「エスキモーボーイ」です。彼は日々フレッシュな体験をしてこう感じました。

「こんなとこでも日本と一緒の暮らししててスゲー」って。

【流れ】
①大学入学後、一枚の写真に出会う
↓
②こんな小さな村に人が住めるわけない！って思ったけど、興味と行きたい気持ちが湧いてきた
↓
③手紙を送り、ホームステイさせてくれる家を見つけた
↓
④向こうの人たちと同じように生活を送った
〈＝日本と同じような暮らしを送っているのがわかった〉

【ofの(暗記じゃない)イメージ】

イメージ・・・名詞を繋げる**接着剤**のような働き
名詞同士に**関係を持たせます**

名詞にも大きさがあって、その大きさが＝のときにofの同格用法につながります！

ほいで、この箱のところに人形が**所属してる感覚**があります！

ex)a member **of** the swimming club

一部　　**所属先**



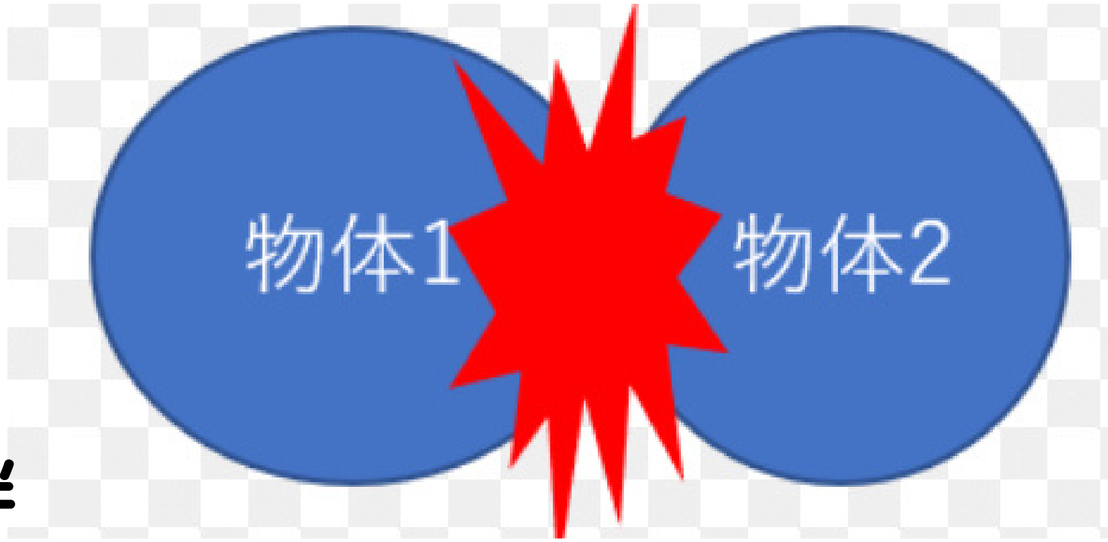
【asのイメージ】

ただただ＝という意味です！
行動＝行動のとき、「～のように」と訳し、タイミング＝タイミングの「～の時」と訳します！



【withのイメージ】

2つの物体が出会ったり、ぶつかったり
するイメージです



withの後ろに道具が来たら、「～を使って」と訳し、人とかが来たら、「～と一緒に」と訳します

＋α：まさに「そばに」のイメージも伴ってあるというわけです！

ex)Do you have money with you?

今、あなたの側にお金あります？ の意味で、現ナマの話をしてます！
（財産としてお金持ってる？の意味ではないです！）

【本文解説】

シシュマレフ村！



【★1】

It was a beautiful photo of the village called

Shishmaref on a small island in Alaska.

接触　　包囲

アラスカってところに囲まれた小さな島にくっついている

①it の指す内容
→前文の“a photo that changed my life ”で、この判断基準は二個
〈ア〉：この文は第二文型でS＝Cとなるのでitはとりあえず“なんらかの写真”です
〈イ〉：代名詞は基本前にあるので、前にある写真系の単語を調べると、これになる！
＊a photo that changed my life：「私の人生を変えた写真」
→このthatは関係代名詞でSの働きをしてくれています
（関係代名詞のカタマリは名詞にくっつき、形容詞の働きをする）

②このofは何？
→名詞と名詞に関係を持たせる！
（名詞の規模には差があるけど、大きさが揃ってたら同格って考えましょ！）
やっぱり同格を伴う名詞は「意見・事実・情報」系の単語（触れないがち）がほとんどでありますので、写真には触れるから同格ではないです！→「村の要素の一つとしての写真」と捉えてみましょう！

③現在分詞・過去分詞を見たら？
→動形詞と考えてしまいましょう！！（形容詞として働く！！）
ex) a boy running in the park/a letter written by him
　　a running boy
公園で走っている少年/彼に書かれた手紙/走っている少年

【★2】

Living in Alaska, I discovered that people lead their

everyday lives even in such an out-of-the-way place,

just as we do back in Japan.

①分詞構文を見たら？→動副詞と考えてしまいましょう！
※訳し方は色々ありますが、和訳問題じゃなければ「～して…だ。」と考えていいでしょう！

②今回のthatは接続詞です！

★接続詞のthatを伴う動詞はある程度決まっていて、

「思う・言う・気づく」系の動詞です！

③語順に注意！suchの扱い方！

★such+ a/an +形容詞+名詞：「こんなに形な名」と訳します！

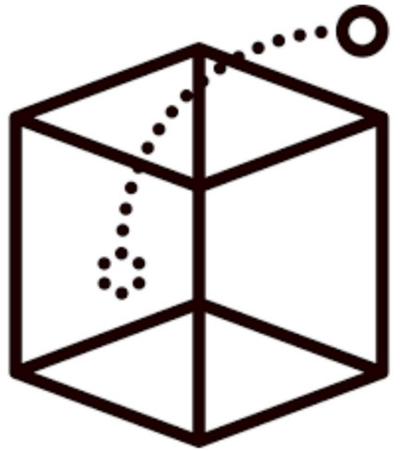
今回、形容詞のところにout-of-the-wayが来ています

out　　of　　the way

離れた　　つながり　　生活手段（一般の）

こう考えることができるので、

「我々の生活とはかけ離れた」と訳せるでしょう！



④just asの考え方

★やっぱりasは＝で考えよう！！

今回は「私たちが日本に戻って送る過ごし方」＝「原住民の暮らし方」と考えられます！

→すなわち、「私たちが日本で送っている生活のように」と訳せるでしょう！！

＊justは強調で働く！

授業はここまで、お疲れさん！

【青のところを攻める】

★S believe 【that S'V'…】

V O（このthatは接続詞で目的語の役割を果たしている）

→「SはS'がV'…すると（強く）思っている」

・書いてあるようにthatは接続詞ですが、なんでそうなるでしょう？

→単純明快で"believe"が「思う」に当てはまる動詞だからです！

★ such a remote place：「こんなに離れた場所」

→授業で解説したように"such"の語順に注意しましょう！

＋α：remoteは【re＋mot】のカタマリが形容詞になったもの！！

後ろに＋動く→「遠く離れた」

→motからmoveの雰囲気を感じますね♪

★not～any…：「～な…は一つもない」は知ってるでしょ？
＋αで、"any～not…"の語順がないことも知っときましょ！

★asking him 【to introduce me （to some family 〈who might let me stay〉 ）】
V O 【→】のイメージ

・ask 人 to V…：「人にVするように頼む」
・introduce 人 to 人'：「人を人'に紹介する」
・このwhoは“主格の関係代名詞”
→句の中でSの働きをし、familyを説明してある！
・（大切！）let me stay：
「私を泊まらせる」＝「私が泊まるのを許してくれる」

このletとかいう動詞は第五文型でCに動詞の原型を持ってくるやつです！
→前の授業で言ったように、SVOCのOCには主述の関係があるので、「私が泊まる」という意味を捉えておきましょ！！
＊訳：「彼に私が滞在するのを許してくれる家族を紹介してくれるように頼んだ」

★It seemed 【that every day brought me new experiences】.
S V O S' V' O' O'
・it seemed that SV～：「SがV～のようだった。」
→このitは代名詞ではなく形式主語と捉えてOKです！
（it=that以降でおけ）

・前回の授業で言ったように**第四文型の動詞には「与える」の意味がありますよ**ね！ってことは、that以降は第四文型なので、このbroughtは「もたらした」でもええけど、「与えた」って訳した方がさらにイメージが湧きやすいでしょう！！

＊訳：毎日が私に新たな経験をもたらしてくれた（与えてくれた）

これで解説はおしまい！
きちんと読むんやぁで！